

優秀賞

知識を「つなぐ」

白百合学園高等学校 3年 繁田 さな子

この夏はどうやら「天王山」らしい。私は文字通り、起床して朝食をとって勉強して昼食をとって勉強して…という、何とも単調な日々を過ごしている。しかし、そんな毎日を少しばかり彩り、私を楽しませることがある。それは「知識をつなぐ」ことだ。

この楽しみを得るためには少し工夫が必要で、そのひとつは自分の間違いに気づくことだ。例えば今日の午前中に模試の復習をしていた時、私はハンガリー語はウラル語族であることに初めて気づいた。ヨーロッパの言語分布図はそれまでも何度も見返していたが、周囲にスラヴ語派の言語の国が多いため、無意識にハンガリー語も同じだと思っていたのだろう。しかしその瞬間、十世紀にハンガリーを建国したのはマジヤール人で、彼らは非スラヴ系だ、という世界史の知識の断片が頭の中を駆け巡った。要するに私の間違いが私の地理の知識と世界史の知識をつないだのである。そんなこと、と思うかもしれないが、こういう瞬間が私にとってたまらなく楽しい。

もう一つ必要なのは、意識してつなぐとすることだ。とりわけ世界史では縦と横のつながりを意識しなさいとよく言われるが、横のつながりの方が圧倒的に難しいように感じる。歴史が地域ごとにとまって書かれている教科書を読むだけではどうしても掴みにくい。そこで、白紙の上に世紀ごとの世界地図を描いて意識的につなぐようとしてみたところ、それまで断片的だった知識があるままとまりをもって紙面に現れた。

前者はふとした時に「つながる」、後者は積極的に「つなげる」という感じだろうか。いずれにしても、おかげで私は二月まで楽しく勉強することができそうだ。

あつという間に「天下分け目」の夏も終わりを告げようとしている。明日はどんな「つながり」が私に驚きと喜びをもたらしてくれるのだろうか。